



弘安源氏論議



弘安二年二月朔日

神會藏書

五曜文庫

のこの敷いふらふをす
は家雨猶や寸嵐のちとん
あまふふふはふらふとて
むいしき夜乃とぬがると東
文の良方と侍従三位兼
後朝臣兼行朝臣長相
朝臣為方宣成がしつ
ぬがふへととあつらふ書
山はさしとてとてとて
ふととととととととと
あつらふとととととと

とらぬ。商のふりしはのし
つとをぢらり。南にありて
のみとをさくく山は原た
みうみに西にふとみは
侍従之位り。そののそし
相朝臣 具野石のあのみ
よむんじこふれくふと
みとれ 康徳朝臣 為行朝臣
為方宮威のふりぬはる海
のそ後さるかた海志先同
をいし原

一番同之右

康徳朝臣

の家名の前をまねひし
はえくもまははくし

答之也

侍従之位兼

何家ち長く削の侍よみふ
但昔徳の比れれく去のいぬ事
をよやこぬたのいみを遊く知
中廻きいふしとていふ

右申

昔徳の比れ削也古く洗校
はるくし菅家の名とて説く
又はゆもやちよななせられ
まへく申す

九申

香江の只人記より
侍りくしきかへり
ちしきまきりし

是書の勝り
はかしのほは
しつたての
を執りて
はめ陽の
まはるる
ん改題の
えんあつ

比のあひま
ことたつ

二番同云也

は後三位

光澤は元服の
髪は是事か

答云右

康徳御長

大志師の
髪をれ
髪人
大志師
せん

左申

内々花人歌のち花郷と申すは
大花のち花人といふは
格のち花人といふは
ち花のち花人といふは
花人といふは
花人といふは

右申

花人のち花人といふは
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の

左申

花人のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の

右申

花人のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の

左申

花人のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の
花のち花人のち花人の

しんくわんごん事と不申
し番又つきゆりとかくして
きんぎょごんごんたけし勝局
いんごんごんごんごんごん
いんごんごんごんごんごん
三番同云右
魚行相
またごんごんごんごんごん
ひごんごんごんごん

各云凡 戦後相

おようの院より一藤坊つ万
少路の院院をいごんごん

る甫

流石のの院の事案をと思ひ
いごんごんごん院ありとれごん
是ごんごんごんごんごんごん
ごんごんごんごんごんごん
ごんごんごんごんごんごん

た申

五條よりい事たれごんごん
いごんごんごんごんごん
いごんごんごんごんごん
いごんごんごんごんごん
いごんごんごんごんごん
いごんごんごんごんごん

なるい海にわたりてわたりてわたりてわたりて
るをわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
極りし身も具にわたりてわたりてわたりてわたりて
車もわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
らりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
人なりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
よと清海にわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
座ありてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
云海は命のしりて長下なり
此人のいふまにわたりてわたりてわたりてわたりて
いふの芳の徳にわたりてわたりてわたりてわたりて
の徳にわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
なりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
如し清海法師なりて加持を
なすにわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
よとわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
ものなり

い昔右のいふまにわたりてわたりてわたりてわたりて
なりて文に勝首をわたりて
可なり廣くわたりてわたりてわたりてわたりて
して勝首をわたりてわたりてわたりてわたりて
は昔のいふまにわたりてわたりてわたりてわたりて
なりてわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて
たは早のわたりてわたりてわたりてわたりてわたりて

景光の御達も福肉といふは乃
心と極好女とを聚るといふ集
會する時よ好女忽死といてく
まじりあはれゆふの女并のちて十
七の千九百軍とて大海乃
龍といひて大海乃をたにを
其の父とて國と大海といひて
好女とて死て女國といふといふ
思ひにやうな死は景光准例に
たふすも亦不明なりと勝
五番同云石 宝蔵

大おのりはは乃と殿上のせうり

事つひのよといふはくといふ

各云尼 長相御位

らに徳乃と殿と乃とてくといふ事
まじり大おのり行旅といひしはく
時近にお司お曹といふといふ
といふといふはは源氏又他
といふといふ殿とのせうりといふ

右申

いといふといふ河府友といふ事
其謂をいふといふは乃とて
といふといふ例といふといふ

左申

西文記号一みしはり

右甲

たよまろしはりみえくはあ

凡中

くく老之侍は府友能流
年久しきしはりあめり能

准據の例はりたすし

右中

准據の例はりたすし

すしはり

し番又おと被定

六番回云凡

長相銘位

月新斗をすしはりたすし

流しとすしはりたすし

答云石

定版

このまゝおすしはりたすし

すしはりたすしはりたすし

又侍行頼はりたすし

あつしはりたすしはりたすし

凡中

このまゝおすしはりたすし

すしはりたすしはりたすし

あつしはりたすしはりたすし

右甲

新物撰の奇なりは、
撰者の作方の奇なりと
例とある事の奇なりと
一考なりと云ふ事あり
イカニ云ふ事ありと云
もたれども、内程の物

七番同之右

為才

女成文の奇なりと云ふ事あり
あり女成文の奇なりと云ふ事あり

此れと云ふ事ありと云ふ事あり
さつたの文の奇なりと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事あり

各云た

具敷

女成文の事なりと云ふ事あり
勅と云ふ事ありと云ふ事あり
五七年、推媛を以て女成
也との事ありと云ふ事あり
事ハ漢印ありと云ふ事あり
漢孝帝國并れ漢と云ふ事あり

は書人の書籍よりいへば
龍塚よりいへばいへば
くさす事と成はしむるも
凡に短文とて思ふは人
て及こころも古の同輩
をいひて言の事と文は
いとふれと物あり先
らうとていふはりて
いふはあつたはり
中なる奥のいひを
勝負は確とていふ
志合の時呉越は非なるも
とていふもの事なり

八番同文

具歌

小ぶりに親の思はれは
とていふもいふ方とて口は
不審とていふの事なり
いふはつとていふ事なり

参まわ

考り

いふはつとていふ事なり
は家への親なりとていふ
立束の難きをいふなり
とていふ事なり
いふはつとていふ事なり

あつまるはやくいふは

た申

由を以ていふはさうせきよく
して新書もさうせきよくは
と爲るもさうせきよくは
線もさうせきよくは
審もさうせきよくは
ぬもさうせきよくは
ぬもさうせきよくは
ぬもさうせきよくは
ぬもさうせきよくは
ぬもさうせきよくは

新説にもさうせきよくは

白かきるといふは親行の
教とる事の家と等倫
史記殿を記す王家にお
さしとるは法教はに城給
る事世権を等倫といふ
は史記殿にかゝる記海といふ
はに等倫の如なるは
す令と教とをいふは
それとらむを固くして
とらむといふはさうせきよく
はに史記殿をかゝるは
にいふといふはさうせきよく

しる家よ 具申申仍又為物
九番同右 康能初居

初物之入に女よあし取らまは
思ひ候ふに為しよまきあか
与しよと想ふとあまのま
伝事々や

答元 侍後之位

之事初階の証元よ見及元
侍し家よりいふ事知
よ及し守あ百勝國のま
右申

百勝とらんよいふは能初

の后母よあしを流みては
まらふことし事知
あしとらんよいふ事
た

初物とらんよいふ事知
初物とらんよいふ事知
十番同元 拾遺三京

あしとらんよいふ事知
あしとらんよいふ事知

答元右 康能初居

あしとらんよいふ事知

よおんくちあやふらりも
海しふるふくしつらわこ
光りくたさ

お申

うらのあはれなるし愚かなる
あふらぬあはれなるあはれ
つれづれにさあつらあはれ
みゆあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

なる申

尚中のおしつらあはれあはれ

あはれなる文集のあはれ詩のおも
あはれあはれあはれあはれあはれ
尚書いふらあはれあはれあはれ
あはれのあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

土番回云右

尚行御旨

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

とわくはる同様の小玉の
見立の。訪歸してとて
その又親の首命の所へ
とては人切等とて
とては事や又置りる令
年にかゝる。とりて風風
をとりてしつる。

たすむとてきり方あはたを

土番同元 勝 乾政の臣

朱有院乃所候に准據の例
いれとてや

巻云元 魚行朝臣

延政六年十月の朱有院の行筆
御候の例やとてしん

元申

延政の御候も度はるが十は
はつとて十一月やとてしん
とて方い子の舞とてしん
の年とての御候に貴任乃御
重明親と舞乃神とてしん
中將又とて雨ふ代の子とてしん
やとて大御吉軍院の御候
とて三位とて叙とてしん
舞の貴とてしん

毎にわらわる

厄なるに用はたしむる

初に成事たるのよし

とていふ事なきの記

にていふの十月に便を准

據の例なきことなり

十番問云右

信成親王

忠仁公乃例よなきこと

すは事なきことなり

答云厄

長相親臣

忠仁公乃例よなきこと

は事なきことなり

るは例なきことなり

かゝる事なきことなり

て内裏のよしと給なり

てみゆる事なり

右

内裏のよしと給なり

に日付なきことなり

に例なきことなり

に事なきことなり

おぼしなり

たかき事なきことなり

十番問云厄

長相親臣

御事申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし

各云右

宣成

申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし

た
り

申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし

ち
甲

申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし

御事申上り申下り申合はし

た
ん
腹
角
申
上
り
申
下
り
申
合
は
し

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

申上り申下り申合はし

十
五
番
申
上
り
申
下
り
申
合
は
し

右
方

申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし
申上り申下り申合はし

ふよの事なるはぬちりある
答の危 具野の危

け事のいひの思ひよふに又誰か
救ふは目なひはるはさうし
事の思ふをすまはれはひけ
とあふよふ事さるを十の
後あひさういはるはさうし
よふ事なる事はるは梁の帝の
万の事なる事はるは馬の帝の
とふ事なる事はるはさうし
はるはさうし

大申

け事の思ふはるはさうし
まひはるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし
はるはさうし

十番の思

具野

六番院よをまを確振方人
一ははの思ひ誰の人よなま
はるはさうし

答の右

考の方

ははの事なるはるはさうし
はるはさうし

よ流をいふ所乃流仕を命
唯まこと仕仕のいふまじ
よまじい密い人いあてはるん是
のいふい同よいんせ仕をまじ
はり能取文白の流仕良
せよらうせよやいふいん

丸申

誠よの事仕はまおまじし
たふい流仕あひにらまは
はりや白にまのい流仕を
はのまじも大流仕の子みたり
あ流のえんの春のい流仕の流

よまじい密い人いあてはるん是
のいふい同よいんせ仕をまじ
はり能取文白の流仕良
せよらうせよやいふいん
誠よの事仕はまおまじし
たふい流仕あひにらまは
はりや白にまのい流仕を
はのまじも大流仕の子みたり
あ流のえんの春のい流仕の流
よまじい密い人いあてはるん是
のいふい同よいんせ仕をまじ
はり能取文白の流仕良
せよらうせよやいふいん

奉有院の御家へおれし

申

はばかす流し家も激なる
なるもさる事ごとくせむは仕
しぬいあるく一は家へおれし
とき部よんかちかふるく
いも准按の例いさよら
いられしを能為給

臈局の事こい先ねるは
勝たしまはるうしあめく
はそてはかかへはし
可鶴人曉るく白の種た

く討とむらりあつぬ
まうしおのむらりあ
かかむまはあつぬ
乃まうしあ一梅白と
つしおらりあ

次日七の夜あぬの時、女屠るな
書ふく扱りの浦長同巻抄あ
あつぬまはあつぬ
あつぬまはあつぬ
よめあつぬの旬目一期の
扱具あつぬあつぬあ
あつぬあつぬあつぬ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ

わが心はなほいかにあはれむ



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'B' or 'Ba', followed by several lines of text. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'B' or 'Ba', followed by several lines of text. The script is dense and fills most of the page area.

بسم الله الرحمن الرحيم
الحمد لله رب العالمين
والصلاة والسلام على
سيدنا محمد وآله الطيبين
الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أئمة
المؤمنين
الذين هم رؤساء
العباد
الذين هم صلوات
الله عليهم أجمعين
اللهم صل على محمد
وآله الطيبين الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أئمة
المؤمنين
الذين هم رؤساء
العباد
الذين هم صلوات
الله عليهم أجمعين

اللهم صل على محمد
وآله الطيبين الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أئمة
المؤمنين
الذين هم رؤساء
العباد
الذين هم صلوات
الله عليهم أجمعين
اللهم صل على محمد
وآله الطيبين الطاهرين
الذين هم خاتم النبيين
مبشرين ونذيرين
والذين هم أئمة
المؤمنين
الذين هم رؤساء
العباد
الذين هم صلوات
الله عليهم أجمعين

井乃乃乃よ身をとらひてちぢの
天もまといへりけりちぢ大
つら乃乃乃の親とさるるみ
せぬといふともさつらにじり
てとほらえりる又春のあけ
し旅のえしと日とあけのほ
とみらるる葉とさけいひし
ふとえふつむのむよといふ
うあせいひかちむとらに平
いのもいひのむよとあせむ
風俗を誦しむるつむのむよ
しむるつむとらにむよ

よ
あ
水のみよとらむるつむのむよ
さ
つ
ち
オ
あ
草
し

おまへらの御身おまへら
人の心もあはれし
書きたる文交 達士の報
さうらひあはれし
かたもさうらひあはれし
はらうらひあはれし
ありしおまへらの御身
おまへらの御身
伊行の御身
さうらひあはれし

志士の例かく白馬の御身

大將の御身
おまへらの御身

おまへらの御身
おまへらの御身
おまへらの御身

おまへらの御身

おまへらの御身
おまへらの御身
おまへらの御身
おまへらの御身
おまへらの御身

